

8-2 難聴（なんちょう）

高齢者の難聴の多くは加齢に伴う感音性難聴である。
 若年期からの中耳炎などによる難聴に、加齢による聴力低下が加わる高齢者もいる。
 感音性難聴は治療の対象にはならないが、補聴器の使用を勧める。

主な症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 会話の際、音としては言葉が聞こえるが内容がわからないといった訴えが多くなる。 ● 加齢による難聴は高い音の聴力低下から始まり、これが聞こえる言葉の理解を困難にしている。
------	---

生活上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 耳の聞こえに違和感を感じたら、まずは耳鼻科などで診察を受ける。 ● 相手の口の動きで言葉を理解する方と話す場合は、意識してゆっくり、はっきり口を動かして話すと理解されやすい。
---------	--

ケアマネジメントのポイント	<p>＜支援者の留意点・視点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 聞きとれていなくても返事をしている可能性もあるので、確認が必要。 ● 阻害感を感じないように、筆談・大きな声で話しかける等の気配りをする。 ● 参加できるレクリエーションやコミュニケーションを工夫する。 ● 利用者が不安にならないように周りの状況を伝える。 ● できるだけ耳元に近づき、低い声で一語一語を区切りながらゆっくりと話す。 ● 口の形や表情も重要な情報源になるため、明るい場所で正面から話す。 <p>＜活用できる福祉サービス等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 補装具費の支給（障害者福祉施策）で補聴器の購入・修理に要する費用の支給あり。日常生活用具費の支給。福祉電話の貸与など。 <p>問合せ先：区役所保健福祉部</p>
---------------	---

代表的な薬	<ul style="list-style-type: none"> ● 耳鳴緩和薬（ストミンA） ● 脳循環・代謝改善薬（アデホスなど） ● ビタミンB12製剤（メチコバルなど）
-------	---